



北方民族博物館だより

No.97



H11.2 木製なめし具 コリヤーク

ロシア／カムチャツカ州／アリュートル地区／ハイーリナ村

1998年収集 長さ69.0cm

カムチャツカ先住民社会には、伝統的な皮革加工技術が継承されている。

写真のトナカイ皮なめし具は木製で、棒状の形をした両端を握って使われる。柄の中央の両側に溝状の穴が開けられており、鉄製または石を打ち欠いて作った刃を装着する。膝の上に載せたなめし板に毛皮を置き、はじめに円形の鉄製の刃で皮の内側を削り、場合によっては毛も除去する。その後、石製の刃を使って皮を柔らかくする。なめされた革は、皮革製品に加工される。

目次 Contents

- 1 表紙 トナカイ皮用木製なめし具
- 2 ロビー展「進藤冬華作品展」／ロビー展「こだまみわこ作品展」
- 3 講習会「はじめての木版画」／講座「日本の国立博物館」
- 4 INFORMATION



北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

ロビー展

進藤冬華作品展
鮭のウロコを取りながら

2015. 4. 18-5. 10

本展では、美術家・進藤冬華さんの作品を紹介しました。北海道札幌市出身・江別市在住の進藤さんは、札幌、東京、北アイルランド、フィリピンなどで美術作品の制作・発表をされ、近年、国際的に活躍の場を広げているアーティストの一人です。



鮭皮につぼの刺繍を施した作品「つぼ」

進藤さんは、これまで北海道や青森、サハリンなどをまわって現地の人びとと交流しながら、各地の伝統的な素材や裁縫の技法などを学ぶフィールドワークを行ってきました。本展では、ご自身のフィールドワークに加え、当館で紹介している北方民族の資料にみられる伝統的な知恵や技術もヒントにして創作された作品33点を展覧いただき、

進藤さんご自身による展示構成で紹介しました。

進藤さんは制作者あいさつ（パネル）のなかで「いろいろなアイデアを作品として実現させる過程は作業自体が楽しく、博物館の展示を見ているのとは違う発見がありました」と述べておられます。当館の展示資料を身近な素材をつかって模した「カジュアルレプリカ」や、北海道やサハリンの手工芸にならって制作された鮭皮の作品などが並び、北方のアイデアが進藤さん独自の感性で表現されました。

進藤さんの制作活動は、手仕事をとおして北方の文化と対話する試みでもあります。本展をとおして、展示を見たり本を読んだりするのは少し異なる、北方の文化との関わり方の一つを紹介することができました。

（学芸グループ 山田 祥子）



進藤冬華作品展の様子

ロビー展

こだまみわこ作品展 木版画
北の自然と暮らし

2015. 4. 18-5. 10

進藤冬華作品展と同時開催した本展では、版画家・こだまみわこさんの木版画作品51点を紹介しました。北海道北見市出身のこだまさんは、1991年に北海道平取町川向にある沙流川アート館（旧平取町立川向小学校）を拠点として制作活動を始め、現在まで同館のほか、東京、苫小牧など数多くの展覧会で作品を発表されています。

こだまさんは、平取へ移られて以来、主として身の回りの自然や暮らしの風景を描いた作品を制作してきました。そのなかから本展でも、四季折々の野花や野鳥を題材にした作品や、沙流川アート館周辺の移りゆく風景を表現した作品などを展覧いただきました。

また、本展ではモンゴルやサハリン先住民族の民話やことば、暮らしの風景をモチーフに創作された作品も紹介し



会場の様子（一部）

ました。こだまさん自身はモンゴルやサハリンを訪れたことはありませんが、現地を訪れた人の話を聞いた民話の本を読んだりして、ご自分の住む北海道より北の方にある自然

や人びとの暮らしを思い浮かべ、興味を感じたものを自由におりこんで作品を作ったそうです。

なかでも縦2m幅5.4mもの大きな布に刷られた版画「北へむかって」は、こだまさんが本展に合わせて特別に制作された作品の一つです。ほかに長さ2.5mの掛け軸状の作品や、ウイльта語の数詞をあしらった版画を貼ったマッチ箱「ウイльтаマッチ」もあり、サイズも形状もさまざまで見どころの多い展示となりました。

（学芸グループ 山田 祥子）



版画作品「北へ向かって」

講習会

はじめての木版画

2015. 4. 18

講師 こだま みわこ氏（版画家）

ロビー展関連事業として、版画家・こだまみわこさんを講師に迎え、木版画づくりを体験する講習会を開催しました。今回は、好みの絵柄で簡単な多色刷り版画を作り、マッチ箱に仕上げました。

はじめに、版木となるベニヤ板に下絵を描きました。絵柄の参考としては、北方民族の関連書籍や民話の絵本などを見ていただいたり、常設展示室で資料を見ていただいたりしました。トーテムポールの一部をデザインした方、渦巻き文様を模して描いた方、好みの動物や動物を象った考古資料を描いた方、こだまさんのロビー展出品作品「ウィルタマッチ」を真似した方などがいらしていました。

次に下絵に沿って、彫刻刀で彫ってゆきます。細かな作業でしたが、皆さん丁寧に作業を進めておられました。

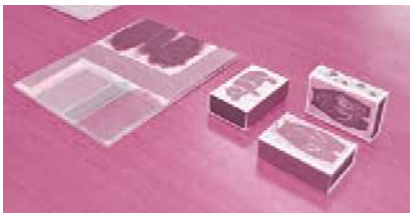
参加者が一番苦労されていたのが、刷りの作業です。刷毛をつかってポスターカラーを塗った版木に和紙をのせ、その上面をバレンで擦って版木から和紙に色をうつしてゆきます。このとき、ポスターカラーの水加減やバレンで擦

るときの力加減が難しく、参加者の皆さんはこだまさんのご指導のもと、気に入った作品ができるまで何枚も刷っていました。

最後に刷り上った版画をマッチ箱に貼って、完成させました。版木は一枚ですが、色違いで三つの作品ができました。できあがったマッチ箱は各自お持ち帰りいただきました。



講習会のようす（右は講師のこだまみわこさん）



ポスターカラーをのせた版木（左）と、完成した三点色違いのマッチ箱（右）

（学芸グループ 山田 祥子）

講座

日本の国立博物館

2015. 5. 17

講師 内田 祐一氏

（文化庁文化財部伝統文化課アイヌ文化振興調査官）

5月18日は国際博物館会議（ICOM）が定めた、博物館が社会に果たす役割を紹介する「国際博物館の日」です。この日を記念して、全国の博物館ではさまざまな催しが企画されました。北方民族博物館でも講師に文化庁アイヌ文化振興調査官の内田祐一氏を迎え「日本の国立博物館」と題した講座を開催しました。

講座は、現在日本の国立博物館がどこに何館あるのかという問いかけから始まりました。答えは7館ですが、大きく三つのグループに分けられます。

一つは国立文化財機構にはいる、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館で、もう一つは国立人間文化機構にはいる国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館、そしてもう一つが国立科学博物館です。またこの他に国立の美術館群があります。

グループの違いは活動方針や所蔵資料の内容や点数、観覧料金の違いなどにも現れています。

いずれのグループにしても、博物館の所蔵資料は現代人のため、また日本国民のためのものだけではなく、全人類の財産として未来に伝えなければならないことを強調されました。

最後に平成32年に開館予定の国立のアイヌ文化博物館（仮称）について紹介されました。北海道初の国立博物館として、白老町に建設されます。

博物館を訪れることはあっても、その概要がどのようになっているのかを知ることは少なく、普段接することのない情報に触れられてよかったという感想がぎかれました。博物館により関心をもっていただく好機となりました。

（学芸グループ 笹倉いる美）



内田 祐一氏

第30回特別展

森と川の精霊とともに ロシア・アムール地方のアート&クラフト

ロシア・アムール地方には、ナーナイ、ウリチ、ウデヘ、エベンキなどのツングース諸民族や、ニブフが暮らしてきました。

それぞれの民族は漁撈活動、狩猟活動、トナカイ飼育などの生業を営むなかで、さまざまな道具を作り出しました。そうした道具は、機能的で洗練された形やデザインをもっています。

本特別展では、北方民族博物館が所蔵する資料のなかから、素材ごとにコーナーを設け、諸民族の暮らしのなかからうみだされた工芸と芸術を紹介します。

会期 平成27年7月18日(土)～10月25日(日)

会場 当館特別展示室

観覧 一般450円 65歳以上300円 高校・大学生200円(常設展示とのセット割引もあります)

関連事業

- 講座「北方の機織り」7月19日(日) 講師 佐々木史郎氏(国立民族学博物館教授)
- 解説会「特別展解説会」7月19日(日) 講師 佐々木史郎氏
- 講座「アムール流域・ナーナイの文化」9月19日(土) A.P.ドンカーン氏(芸術家)、小野寺マリレイ氏(芸術家)
- 講習会「ナーナイ文化のワークショップ」9月20日(日) A.P.ドンカーン氏、小野寺マリレイ氏

INFORMATION

行事報告

- ◆ 4月25日(土)、はくぶつかんクラブ「フェルトでつくる北の文様入り小物入れ」(講師：石原生久代解説員)を開催しました。



小物入れづくりのようす

- ◆ 4月26日(日)、講座「ウイльтаの昔話」(講師：山田祥子学芸員)を開催しました。

- ◆ 5月3日(日)から5日(火・祝)まで、「こどもの日関連イベント」として「ころころフェルトボールのストラップづくり」、「粘土で作る北のキーホルダー」、「革の三つ編みブレスレットづくり」、「衣装体験」など日替わりでイベントを開催しました。

- ◆ 5月9日(土)、はくぶつかんクラブ「土器づくり」(講師：菅原章子解説員)を開催しました。



土器づくりに取り組む参加者

- ◆ 5月30日(土)、「道立オホーツク公園・北方民族博物館施設見学会」を開催しました。

当館の見学では、博物館の役割について解説したのち、ふだん観覧者の目にふれない博物館の裏側の施設などを紹介しました。



展示の裏側を見学する参加者

職員の異動

[退職](平成27年3月31日)
渡部 裕(学芸員)
高橋利雄(事務局長)
小田島和之(博物館課主査(本部))
永瀬早苗(解説員)

[採用](平成27年4月1日)
野口泰弥(学芸員)
下間孝志(博物館課主査(本部))
本間由美(解説員)

北方民族博物館だより No. 97

平成27(2015)年6月26日発行
編集・発行 北海道立北方民族博物館
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1
Tel 0152-45-3888 Fax 0152-45-3889
e-mail: tonakai@hoppohm.org
http://hoppohm.org
指定管理者
一般財団法人北方文化振興協会